

まえさわ



相原市長らと固い握手を交わす菊地区長（左）

地域が公共施設の「里親」に 水路の管理に地域団体が一役

4月10日、前沢区古城の「寺領水路」の管理について地元古城第2行政区（菊地茂区長）と市、胆沢平野土地改良区（佐々木宏理事長）の3者によるアドプト・プログラム協定調印式が前沢総合支所で行われました。

アドプトとは「養子にする」という意味で、この協定は、地域の水路や道路など公共施設の一部を「養子」に見立て、「里親」となる地域団体などが施設の美化や清掃活動などの保守管理をしていく制度。地域の共有財産を、清掃や緑化活動をとおして愛着心を深め、地域づくりを推進しようとするものです。県内各地で推進されており、市内では6番目の協定締結となります。

まちの話題



奥州市最初の企業立地決定

フロンティアパークに第一電材(株)

第一電材(株)・奥州市 企業立地調印式



今後の飛躍を誓って手を取り合う梅澤社長（左から3人目）ら関係者

江刺フロンティアパークに進出する第一電材株式会社（本社東京都、梅澤拓也代表取締役社長）と市の企業立地調印式は4月12日、ホテルニュー江刺新館で行われました。調印式には同社の梅澤社長、大野昇二取締役営業部長ほか、相原正明市長ら関係者9人が出席。席上、梅澤社長と相原市長が企業立地に関する協定書に署名、押印し、固い握手を交わしました。

同社は昭和43年創業で、半導体や液晶、医療機器、通信機器向けの電線、ケーブルなどを販売する専門商社で、東北には初の支店。梅澤社長は「当社は決して大きくはないが、小回りが利く『スピード&サービス』がモットー。地域密着で発展させていきたい」と力強く抱負を話していました。

操業開始は7月ごろの見込み。従業員は地元から4人を採用し、将来拡大していく計画です。

直木賞作品の舞台を後世へ

衣川区の分校跡に三好京三記念室

ころもがわ



4月29日、衣川区大森の衣川ふるさと自然塾（旧大森分校跡）に、前沢区在住の直木賞作家、三好京三さんの資料を展示した「三好京三記念室」が開設されました。

教員をしながら作家を目指した三好さんは、8年前に閉校した大森分校で14年間、ともに教師であった妻の京子さんと住み込みで教壇に立ちました。この間の教員生活を題材にした小説「子育てごっこ」で昭和51年、第76回直木賞を受賞しました。同校跡を訪れる読者が後を絶たないことから、地区の実行委員会に三好さんが協力し、開室することになったものです。

馬上から楽しんだ満天の桜

水沢競馬場の桜並木を一般開放



馬の背に揺られながら桜を眺める子どもたち

県競馬組合は4月第4週、第5週の競馬開催日、水沢競馬場走路向正面の桜並木を一般開放しました。満開となった4月30日には、水沢愛馬の会（中島達雄会長）主催の体験乗馬や焼肉セットの販売などが行われ、多くの家族連れでにぎわいました。

体験乗馬では、子どもたちが補助員に引かれたポニーや馬に乗り、こぼれるように咲く桜のトンネルの中を気持ちよさそうに通り抜けました。前沢区から家族と訪れた佐藤優衣ちゃん（9）は「最初は恐かったけど、乗ってみたらとても楽しかったです」と満開の笑顔で話していました。

みずさわ

加工施設を備えた産直開設

中山間地域直接支払制度を活用



品定めをする人でにぎわう店内

江刺区広瀬の江刺市農協広瀬支所内に、農産物加工・産直施設「農産工房ひろせ」がオープンし、4月30日に開設記念式典が行われました。神事に続き地元の松風太鼓による演奏、相原市長らによるテープカットで新しい施設の誕生を祝いました。

この施設は、平成17年度を初年度とする中山間地域直接支払制度の共同取り組み活動として、同制度広瀬地区協議会（菊地孝司会長）が設置したものです。産直施設として、地元で生産された新鮮な農産物を販売するほか、利用料金を払えば誰でも利用できる製粉や乾燥などの加工施設を備えています。

豊水と豊作を願って放水式

胆沢平野に春耕本番告げる

胆沢平野に春耕本番を告げる風物詩「放水式」は4月20日、胆沢区若柳の於呂閉志胆沢川神社で開催されました。あいにくの雨でしたが、多くの関係者が参列する中、ことし1年の豊水と豊作を願って神事が執り行われ、当地に伝わる神楽が奉納されました。

胆沢平野土地改良区の佐々木宏理事長は「寒い日が続き作柄が気になるが、農家の皆さんの技術と経験を生かして豊穰の秋を迎えてほしい」とあいさつしました。

この放水式が済むと、胆沢平野に水が行き渡り、農作業がよいよ本格化します。



胆沢川神社で行われた神事